ワンタッチ ノーマルチェーン

取扱説明書

GKT10
GKT110

G need®
SPEEDY
ジーニード スピーディー

軽トラ専用

はじめに

この取扱説明書は、ワンタッチノーマルチェーン「ジーニード スピーディー 軽トラ専用」を正しくご使用いただくために、ジーニード スピーディー 軽トラ専用 の特徴と取扱方法を説明したものです。
既に類似の製品をご使用になられた経験をお持ちの方を含めて、ジーニード スピーディー 軽トラ専用 をご使用になる前に必ずお読み下さい。お読みになった後は、ジーニード スピーディー 軽トラ専用 とともに保管し、ご使用中にわからないことや具合の悪いことが起きたとき読み返して下さい。本製品を譲られる場合は、次に使用される方のために本取扱説明書も併せてお渡し下さい。
また、本取扱説明書をお読みになられた上で、ご不明な点がございましたら、販売店もしくは、本取扱説明書記載のお客様相談窓口までお問合わせ下さい。

安全上の注意

ご使用の前に、この取扱説明書をよく読んで、指示に従い正しくご使用下さい。タイヤチェーンは消耗品ですので不適当なご使用方法によっては、本来の寿命より早く磨耗してしまいます。

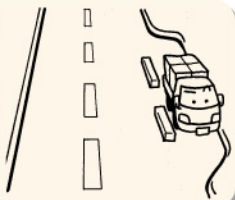
⚠警告 誤った取扱いをすると、人が死亡又は損傷を負う可能性が想定される内容を示します。

この製品は雪路で自動車のタイヤへ取り付けて使用する補助具です。製品のご使用方法や自動車の運転方法によっては、ご使用になる方や他の方々への死傷事故や物損事故を引き起こす恐れがあります。本書ではそのような損傷を防止する為⚠警告⚠注意の事柄を説明していますが、本書に記載してある事柄に関わらず、より一層の安全運転を行う必要があります。又、当製品をご購入後直ちに内容物の確認をして下さい。製品のご使用後における付属品不足や、チェーン本体の製品異常等のクレームにはお受けできかねる場合があります。

◆本製品は軽商用車(トラック・バン)専用です。

軽乗用車全般や普通乗用車には使用出来ません。無理に使用されるとチェーンの破損や事故の恐れがあります。

◆取り付け、取り外しは安全な場所で行って下さい。

坂道、路肩(一般/高速道路)等での作業は事故の原因となり大変危険です。作業は安全が確保できる平坦な所やチェーン脱着所等で行って下さい。

◆異種チェーンや片輪のみの装着は行わないで下さい。

走行中に自動車がコントロールを失い死傷事故や物損事故を引き起こす恐れがあります。

◆チェーンの装着が前輪の場合と後輪の場合で走行の特性が大きく変わります。

前輪に装着:雪路の下り坂では急ブレーキや急ハンドルによって後輪が滑り出すことがあります。

後輪に装着:前輪にチェーンを装着していない為、ブレーキやハンドルの効きが悪く急発進時には後輪が左右に振られる恐れがあります。

◆フックやロックが全て確実に装着してあることを確認して下さい。

装着が不完全なままで走行すると十分な性能を発揮しないばかりか、チェーン破損や死傷事故や物損事故を引き起こす恐れがあります。

◆時速50km以上で走行しないで下さい。

時速50km以上で走行されますとチェーンが遠心力で膨らみ、車体と接触する恐れがあると共に耐久性を著しく低下させ、早期破損の原因となり車両事故等につながる恐れがあります。

◆急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドルは危険です。

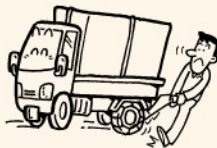
やむをえずこのような運転操作を行った場合は、安全な場所に停止してチェーンの状態を確認して下さい。
又、急な操作を行いますと車体への接触、異常摩耗等により早期破損の原因となり車両事故等につながる恐れがあります。

安全上の注意
使用限度
各部の名称
装着方法
取り外し方法
保管方法
応急修理
適合タイヤサイズ
こんなときは?
走行のポイント

◆空転は絶対にさせないで下さい。

空転(タイヤの空回り)を行うとチェーンに無理な力がかかり、破損の原因となります。このような場合、一旦アクセルを緩め、再度ゆっくりと操作して下さい。

◆増し締めは、必ず(何度でも)実行して下さい。

装着がゆるかったり、チェーンにたるみがあるまま走行されますと、チェーンが路面にたたかれて早期摩耗につながったり、フェンダー内で接触や切断が起こり、事故等を引き起こす恐れがあります。
その為、増し締めはチェーンのたるみが無くなるまで何度でも実行して下さい。

◆雪がなくなったら、出来る限り速やかにチェーンを取り外して下さい。

無雪路ではチェーンが破損し易いだけでなく、車両の走行性能が極端に低下し死傷事故や物損事故を引き起こす恐れがあります。

⚠注意 誤った取扱いをすると、人が損傷を負ったり物的損傷の発生が想定される内容を示します。

▲タイヤと車体との間隔が3cm以上ないと装着出来ません。

走行中にチェーンが車体と接触し、チェーン破損や事故の恐れがありますので、あらかじめ間隔を調べる必要があります。又、純正サイズ以外のタイヤ/ホイールやタイヤ周辺に純正以外の部品を使用されている場合には特に注意し、間隔を調べて下さい。
尚、前輪に装着する場合には、ハンドルを左右いっぱいに切った状態でも確認が必要です。

▲軽商用車専用ですが

荷物を積載していない場合は、エンジンなどの荷重物が前輪部に集中し、車体の重心が高い事から、後輪重量は軽く前後の重量バランスが良くありません。
また、乗車人数や積載量によって重量バランスが大きく変わりますので、走行特性が変化しやすく、走行時は特に注意が必要です。
又、最大積載量相当で使用されますと摩耗が激しくなりますので製品使用限度(P.6参照)は軽量積載車と比較しますと短くなります。

▲ホイールキャップは取り外してから装着して下さい。

走行時はタイヤチェーンの回転移動によりホイールキャップに傷が付く恐れがあります。
また、アルミホイール装着車の場合タイヤとホイールの形状によってはホイールやタイヤサイド面に傷が付く恐れがあります。

▲チェーンを装着している時は、非舗装道路(段差、縁石、砂利道、わだち、オフロード等)を走行しないで下さい。

チェーンが切れたり、外れたりし、コントロールを失って、死傷事故や物損事故を引き起こす恐れがあります。又、タイヤトレッド面にチェーンが食い込みタイヤ自体を損傷する恐れがありますので十分注意して下さい。

▲急激な運転操作や異音が発生した場合、停止して装着状態を確認して下さい。

異常が考えられる場合は安全な場所まで徐行し、チェーンの状態を確認して下さい。装着状態に異常が考えられる場合は再度付け直し、チェーンが切れた場合、必要な応急修理(P.13参照)を行い、別の箇所にも異常がないかの確認を行って下さい。
応急修理が不可能な場合や、別の箇所が使用限度(P.6参照)を超えている場合は使用を中止して下さい。

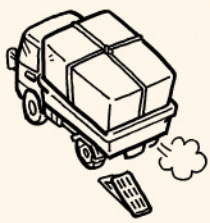
安全上の注意
使用限度
各部の名称
装着方法
取り外し方法
保管方法
応急修理
適合タイヤサイズ
こんなときは?
走行のポイント

安全上の注意
使用限度
各部の名称
装着方法
取り外し方法
保管方法
応急修理
適合タイヤサイズ
こんなときは?
走行のポイント

▲駐車時は必ず輪止め等で動かないように処置して下さい。

降雪状況下ではサイドブレーキを使用しますと凍結により解除出来なくなる恐れがあります。

▲スノーヘルパー（雪道脱出具）との併用はお避け下さい。

金属製、樹脂製（一部金属滑り止め付き）にかかわらずチェーンを装着しての併用はチェーンの破損及び車体への損傷を引き起こす恐れがあります。

▲本製品をご使用して頂くとタイヤ表面が変形・削れ等の破損が起きる場合があります。

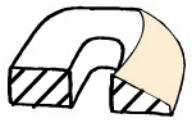
特にタイヤの溝が極度に減っている車にはご使用しないで下さい。

使用限度

●チェーンの線径が50%以上消耗した場合は使用を中止して下さい。それ以上走行されますとチェーンが走行中に切断し、車両事故等に至る恐れがあります。**（チェーンの摩耗を常に確認して下さい。）**

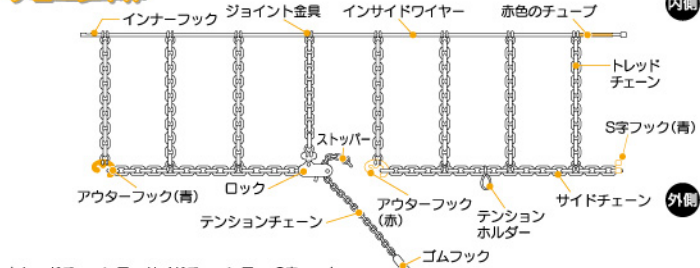
●やむを得ず無雪路**（薄雪路を含めチェーンが直接アスファルト等の地面に接地する場合）**を走行される場合、約50㎞/hの速度であれば走行距離は約30㎞が限界です。**（装着車両の重量及び乗員、積載量により、走行距離は若干の変動は生じます。）**

※常に使用される方、長距離で使用される方には、スペアチェーンを用意される事をお勧めします。

●ゴムフックの材質はゴムを使用しております。そのため使用、保管状況によっては経年変化により本来の性能が発揮しないばかりか亀裂や破損により事故につながる恐れがあります。使用状況によりますが、ゴムフック部は特に水分を切り、チェーンは風通しが良く温度変化の少ない場所で保管して下さい。

各部の名称

本製品には、次のパーツが入っています。必ず確認下さい。

1	チェーン本体	1ペア	3	装着説明書	1　部	5	補修パーツ（トレッドチェーン/サイドチェーン用各2個/S字フック2個）	1セット
2	取扱説明書	1　部	4	作業手袋	1ペア			

※装着後における内容物の不足につきましては責任を負いかねます。

装着方法

初めて使用になるときは、**事前にテスト装着を行って下さい。**装着方法の確認と練習の為、事前に取り付け、取り外しを行って下さい。

装着の前に次の点に注意して下さい。

●スパイクタイヤ、オフロード専用タイヤには装着出来ません。

●車はパーキングブレーキをかけ、MT車ではシフトレバーをニュートラルに入れ、オートマチック車では、セレクトレバーをⓅ位置に入れ、エンジンを停止させます。

●チェーンは必ず駆動輪（FF車は前輪、FR車は後輪、4WD車は各車の取扱説明書を確認）に装着して下さい。

●**装着前にチェーンを路面に並べてねじれが無いか必ず確認して下さい。ねじれたままで装着しますと正しい使用状況下でもチェーンの早期破損の原因となります。**

安全上の注意
使用限度
各部の名称
装着方法
取り外し方法
保管方法
応急修理
適合タイヤサイズ
こんなときは?
走行のポイント

装着手順

装着1

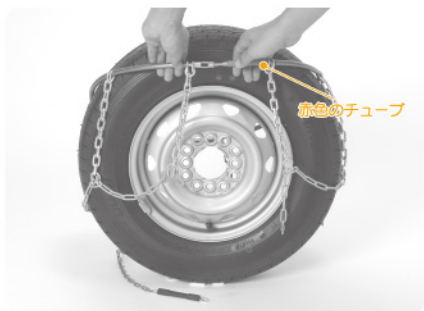
チェーンを路面に並べてねじれや絡まりが無いか必ず確認して下さい。

装着2

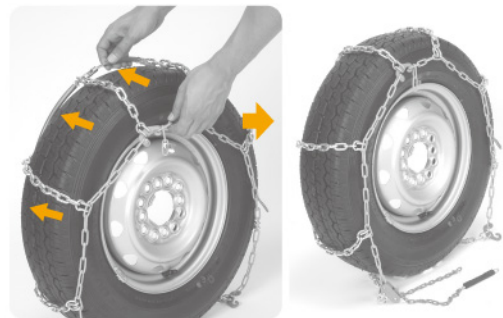
チェーンを図の様に**タイヤの裏側を通します。（赤色のチューブを左から右側に通す。）**通した際、ロック部がタイヤの左側に出る様にして下さい。

装着3

インサイドワイヤーの端と端をタイヤの上まで持ち上げて、**インナーフックを接続します。**（この時、赤色のチューブが右手に来ます。）

装着4

青色のアウターフックをサイドチェーンと接続します。（この時、青色のアウターフックが左手に来ます。）接続の際は、タイヤメーカーや銘柄等により大きさが異なる場合がありますので装着タイヤに合わせて調整して下さい。

装着5

チェーンが均等になる様に、チェーン上部を内側へずらし、全体を十分に手前へ引き出します。

装着6

テンションチェーン先のストッパーを、下側の赤色の**アウターフックに接続します。**（あらかじめストッパー側をロック部より引き出しておいて下さい。）

赤色のアウターフック

ロック部

※ストッパーの引き出しは、ロックレバーを押しながら引っ張ります。

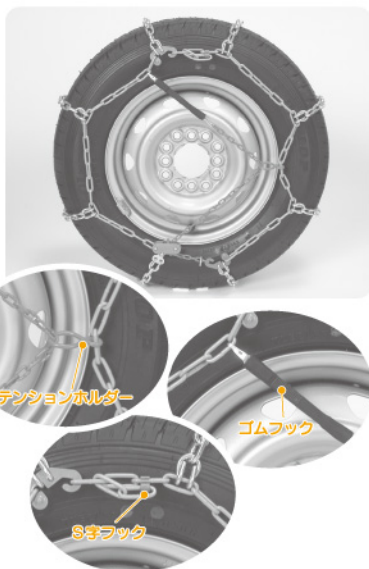
安全上の注意
使用限度
各部の名称
装着方法
取り外し方法
保管方法
応急修理
適合タイヤサイズ
こんなときは？
走行のポイント

安全上の注意
使用限度
各部の名称
装着方法
取り外し方法
保管方法
応急修理
適合タイヤサイズ
こんなときは？
走行のポイント

装着7

テンションチェーンの根元を持ち、十分に引っ張って**チェーンを締めます。**
この時、チェーンを引き出しながら、強く締めます。
タイヤを半回転させ、さらに締めます。

装着8

図の様にテンションチェーンをテンションホルダーに通し、**ゴムフックをサイドチェーンに掛けます。**（タイヤメーカーや銘柄等により、テンションホルダーに通らない場合もありますが、この場合は直接サイドチェーンに掛けて下さい。又、テンションチェーンが余る場合は、サイドチェーンにくぐらせて下さい。）更に、アウターフックを取付け、余ったサイドチェーンはＳ字フックでサイドチェーンに掛け固定して下さい。
Ｓ字フックは両輪のサイドチェーン先端（アウターフックと反対側）に各1ヶ付いており、補修パーツの中にも2ヶ入っています。

装着後の確認

下記の症状がある場合、取付け直しや修正を行なって下さい。

- ●チェーンは均等に着いているか？
- ●チェーンにたるんでいる所はないか？
- ●チェーンがねじれたまま着いている箇所はないか？
- ●サイドチェーンが走行面近くまでずれていないか？
- ●内側インナーフックは確実に接続されているか？
- ●各ジョイント部も確実に接続されているか？
- ●タイヤハウス内に接触はないか？

タイヤにチェーンをなじませる為に、装着後必ず徐行運転にて30mほど走行して下さい。走行後チェーンにたるみが確認された場合は、増し締めを行い、フックやロックが全て確実に装着されて、且つ車体に当たっていないか確認して下さい。もし、装着不具合が見られた場合、取り外し、再度装着して下さい。

取り外し方法

取り外し1

図の様に**青色のアウターフックが上側になる所**で停車させますと、取り外しが楽になります。

安全上の注意
使用限度
各部の名称
装着方法
取り外し方法
保管方法
応急修理
適合タイヤサイズ
こんなときは？
走行のポイント

取り外し2

サイドチェーンからテンションチェーンを外し、ロックレバーを押してロックを解除し、**赤色のアウターフックから**ストッパーを外します。

赤色のアウターフック

取り外し3

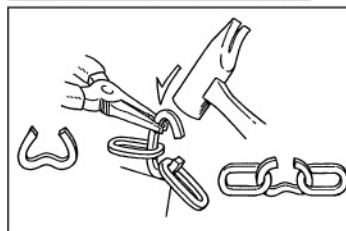
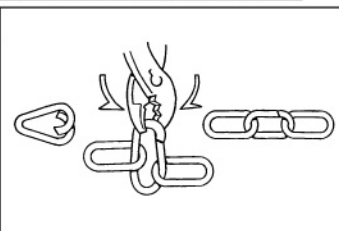
先に青色のアウターフック、次に内側インナーフックの順で外します。

取り外し4

タイヤチェーンが踏まれていなければ、そのままチェーンを抜き取ります。チェーンがタイヤに踏まれていたら、車を移動させて下さい。(その際、各フックをタイヤで踏まないように注意して下さい。)

チェーンの保管方法

使用後は融雪剤や泥などを水洗乾燥後、防錆油等を塗り乾燥した場所に保管して下さい。

応急修理

トレッドチェーンの応急修理	サイドチェーンの応急修理

Attention チェーンが消耗し、切断した際には、付属補修パーツで図の様な応急修理をしてからご使用下さい。但し修理後は、時速10km以下、走行距離10km未満を限度に厳守下さい。**その際、他の箇所も点検し、使用限度(P.6参照)を超えている場合は使用を中止して下さい。使用限度を超えて走行されますとチェーンは切断します。**

適合タイヤサイズ (夏・冬タイヤ共通)

145R12-6PR(LT)　145R12-8PR(LT)

- 適合サイズ以外のタイヤサイズにはご使用しないで下さい。
- タイヤサイズの適合に際しては、タイヤの消耗度、空気圧、ホイールのリム幅、タイヤの銘柄などによっても誤差が生じてきますので、その際には販売店にご相談下さい。
- スタッドレスタイヤに関しましても、基本的には適合表と同様になります。
(但し、タイヤ接地面のブロック形状(溝幅が大きく深い場合)によっては、機能を十分に発揮できない場合がありますので、十分に注意して使用して頂く必要が有ります。)

安全上の注意
使用限度
各部の名称
装着方法
取り外し方法
保管方法
応急修理
適合タイヤサイズ
こんなときは?
走行のポイント

こんなときは?

取付けがうまくいかない場合

	現　象	考えられる原因	対処の仕方
装着時	内側フックが接続できない	チェーンの引っ張りが不十分	チェーンの接地部より、接続箇所方向へワイヤーを十分に引き上げる
		チェーンがねじれている	チェーンを取り外し、ねじれを修正
	外側フックが接続できない	チェーンの引き出し方が不十分	チェーンをタイヤの外側へ強く引き出す
		チェーンのかかりが不均等	チェーンのかかりを均等に修正する
		チェーンがねじれている	チェーンを取り外し、ねじれを修正
	取付け状態が不　均　一	チェーンの引き出し方が不均一	タイヤを回転させ、タイヤの外側に寄っている箇所は内側に押し戻し、タイヤの内側に寄っている箇所は外側に引き出す(直らない場合は最初からやり直す)
		チェーンの接地面がずれている	

※適合サイズ違いも原因のひとつになりますのでご注意下さい。

走行中この様な異常を感じたら

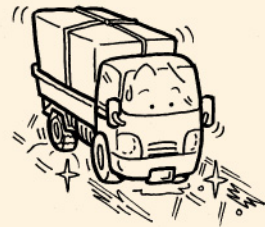
	現　象	考えられる原因	対処の仕方
走行時	異常音がする(接触音)	適性スピード(50㎞/h以下)を越えて走行した	適性スピード(50㎞/h以下)を厳守する
		クリアランス(空間)が不十分	特に狭いほど、速度を十分に落とす
		チェーンにたるみがある	増し締めを確実に行なう
	チェーンがはずれる、ずれる、きれる	厳守事項(空転、急ブレーキ、急ハンドル、急発進、急加速)を守らなかった	厳守事項を必ず守る 空転は極力避ける
		適性スピード(50㎞/h以下)を越えて走行した	適性スピード(50㎞/h以下)を厳守する
		荒れた路面、段差などを無理に走行した	悪路での走行は避ける
		装着状態が不十分なまま走行した	装着状態を完全にする
	チェーンが切れた場合、必要な応急修理(P.13参照)を行い、別の箇所にも異常がないかの確認を行なって下さい。応急修理が不可能な場合や、別の箇所が使用限度(P.6参照)を超えている場合は使用を中止して下さい。		

※適合サイズ違いも原因のひとつになりますのでご注意下さい。

雪道走行のポイント

タイヤチェーンの破損は主に「空転」「装着の不備」「50㎞/h以上での走行」「急ブレーキ」が原因です。無理をせず、チェーンにやさしい運転操作を心がけて使用して下さい。

Point 1 悪条件の路面状態

新雪やシャーベット状の路面又は凍結路では引っ掛かりが少なく、タイヤチェーンのスパイク効果が薄れ、大変滑りやすくなります。低い速度で慎重に走行して下さい。

Point 2 発　進

発進はMT車では半クラッチを長めに、AT車ではクリーピング(アクセルを踏まないで動く状態)を使用すると空転せずに安全に発進出来ます。
路面状態によっては自分でも気が付かない内に空転している事がありますので十分注意して下さい。

Point 3 坂　道

坂道での発進時は、もっとも空転しやすくなります。空転させると本来のチェーン性能が発揮されないばかりか、破損の原因となりますので、平地での発進時と同様にアクセルを踏みすぎない様ゆっくり車を動かし、動きだしたら一定の速度で登坂させて下さい。

安全上の注意
使用限度
各部の名称
装着方法
取り外し方法
保管方法
応急修理
適合タイヤサイズ
こんなときは?
走行のポイント

Point 4 制動（ブレーキ）

雪道では制動力が低下します。チェーンを装着していても車間距離は十分に保って走行して下さい。
制動時にはエンジンブレーキを併用し、ペダル操作は慎重にポンピング（踏む→離す）を行い、ブレーキロックは避けて下さい。
特にFR車及び後輪にチェーンを装着する4WD車では前輪が大変滑りやすくなります。

Point 5 ABS車

ABSは急ブレーキや滑りやすい路面でブレーキを踏んだ時にロックを防止し、制動力及び車体姿勢を維持する装置です。
雪道などではチェーンの装着に関わらずABSの付いていない車に比べて制動距離が長くなる事がありますので特に車間距離や速度に余裕を保った走行を心がけて下さい。

●製造上の不都合が認められる場合以外の製品や本取扱説明書に沿わない使用による車両の損傷については一切の補償に応じられません。

※ 仕様及び外観は品質改良の為、予告なく変更することがあります。
● 本製品は日本で企画開発され中国で製造しております。

Empire Motor Co., Ltd.

本社：〒104-0032 東京都中央区八丁堀2-23-1
お客様相談窓口 0120-557-770
（土・日・祝を除く9:00～17:00迄）
※12:00～13:00を除く
URL http://www.empire.co.jp/